

研究キーワード	果樹、育種、機能性成分		
研究領域	果樹園芸		
大学名	弘前大学	学部/ 大学院	農学生命科学部 国際園芸農学科 大学院 農学生命科学研究科
		氏名	登島 早紀
		職位	助教
相談連絡先	弘前大学研究・イノベーション推進機構 学術研究支援室		
電話	0172-39-3176	E-mail	ura@hirosaki-u.ac.jp
URL	https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/		

研究・技術概要

【ラズベリー】

- ・温暖化が進行する中で、環境適応性が高く、かつ機能性成分（アントシアニン、ポリフェノール及びカロテノイド）の含有量の高いラズベリーの開発をするため、東北地方に自生する在来野生種ナワシロイチゴ等との種間雑種の作出を行い、東北地方に適したラズベリー育種の研究を行っている。
- ・育種にあたっては、栽培方法によって機能性成分の含有量が異なってくるので、付加価値のあるラズベリーを栽培するため弘前での栽培を試行錯誤中（弘前は梅雨がなく、降雨量が少ない環境である）。
- ・栽培に欠かせない苗の生産を効率的に行うため、苗増殖技術の開発を行っている。

【カシス】

- ・青森カシス果実の機能性成分分析、気候変動に向けた新たなカシス育種を行っている。

【リンゴ】

- ・赤果肉リンゴは、果肉の赤色を安定的に入れるのが難しいので、安定的な赤い色（アントシアニン）を有する新たな赤色果肉リンゴの開発を始めている。
- ・赤葉リンゴ（御所川原）におけるお茶利用の可能性について研究を始めている。



事業者からの相談対応可能な分野・内容

- ・アントシアニン・ポリフェノール・カロテノイドといった成分の含有量調査。
 - ・苗（ラズベリー）の株の維持のための技術指導。
 - ・苗（ラズベリー）を増やすための技術指導。
 - ・その地域に適した環境で生育でき、かつ機能性成分の高いラズベリーの開発の栽培の面での共同研究。

 - ・機能性成分が高含有量で、温暖な環境でも栽培できるラズベリーを開発し品種登録したところ、自治体と地元企業が注目し、製品化を行った事例がある（この品種は当該自治体内でしか栽培できないよう権利関係整理済）。
- ※栽培に関して地元企業と共同研究で品種開発や栽培指導を行っていた。